

2016年度3年次編入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)	面接	専門試験 作品 利用
	狙い・意図	狙い・意図	
日本画		提出作品から、表現力、発想力、および色彩感覚を総合的に判断。面接では、本学志望理由、小論文を参考に判断した。	●
油 画		提出した作品が当該学年に相当する技術力・表現力を持ちえているか。大学編入後のビジョンはあるのか。普段どのような意図で制作しているのか。美術についてどのようなことを考えているのか。多摩美術大学油画科を選んだ理由が明確かどうか等総合的に判断して採点を行った。	●
版画			
彫刻		立体表現への関心や、興味のある専門領域を確認するとともに、将来的な展望も含めて、本学科への明確な志望動機や専門領域への適応能力を有しているかを、総合的に判断する。	
工 芸		なぜ本学の工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。 これまで学んだ専門分野での到達度と、さらに今後の本学での専門授業に対応する力をみるため、これまでの研鑽の蓄積がうかがえるファイルや資料の充実を望む。 また、人物から受ける熱意などもあわせて判断する。	●
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか	面接 ・編入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・持参作品による色彩・構成などの基礎的造形力や描写力の評価 (持参作品を重視する傾向にあります)	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か ・3年次に相当する能力を有するか	・3年次相当の実技力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な色彩感覚とデザイン力、さらにパターンデザインをいかに理解しているかを問うことをねらいとして出題した。また、色彩表現に留意した上で、植物をモチーフとしたパターンデザインを独創的な表現力をもって、美しく描かれているかを採点のポイントとした。	受験者が本専攻の基礎課程(1,2年次)と同等の教育課程を修得しているか、また、3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品によって審査した。さらに、口頭で自分の考えやテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるかも評価の対象とし、採点のポイントとした。	×
環境デザイン	本学科の2年生と同等の基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	大学を変えて学ぶ理由が、はっきりしているか。今までの2年間で学んだものを的確にプレゼンテーションできるか。本学の授業を理解できるだけの専門的な知識が備わっているか。	
情報デザイン メディア芸術コース		面接試験のねらいは以下の能力をみることにある。採点のポイントはこれらを総合して判断する。 ・編入後のビジョン ・作品制作に必要なスキル	●
情報デザイン 情報デザインコース		1. 作品は水準以上の質を保っているか 2. 作品プレゼンテーションは的確か 3. 入学後の具体的なイメージはあるか 4. 卒業後のビジョンはあるか	●
芸術	小論文 論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるにふさわしい能力があるかという点が判断基準となります。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	面接 芸術学科で何を学びたいか、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意、卒業後何を書きたいか、将来の展望等を質問し判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視 点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか。	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・授業についていくために必要な技術や知識などを有しているか	
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	基礎的な運動能力/身体表現についての理解力、発想力、即興力/台詞への即応力/音楽(リズム)への即応力。 上記の項目を、総合的に採点し、当学科当専攻の基準に達しているかを判断する。	面接においては、志望動機/実技試験の感想/演劇・ダンスの経験の有無/自分の将来像/最も面白いと感じた芝居・映画・小説など/特技(楽器演奏・スポーツなど)を題材に会話を交わしながら、表現者となるに必要な思考回路、感受性、表現衝動を持っているかを判断する。加えて、以上のことから、3年次に相当する能力を有するかを判断する。	
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	鉛筆デッサンは、4種類の質感の異なるモチーフを与えます。それらを想定で組み上げることによって空間構成力を・モチーフの異なる質感を描き分ける観察力と表現力・光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探ります。 舞台美術はプロセアムを、映像美術はフレーム画角を意識して美術設計を行います。日頃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要です。また、常に光を意識し独創的でドラマティックな発想をすることが必要です。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということです。 3年次編入に相当するデッサン力を有しているかも判断します。	日本語会話能力(外国人受験生) 学科の特色を理解しているか 協働性があるか 授業への熱意と適応力があるか 作品の説明が的確であるか また魅力ある作品であるか 編入学志望理由と目的が明確か 3年次相当の実技力と専門能力を有するか ゼミ授業への希望が明確か 3年次編入の作品面接では、提出された修得単位資料では判断し兼ねる基礎スキルや専門能力のほか熱意も判断基準となります。	

全学科共通小論文

- 1) 題:「ネット社会の美術」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。
- 2) 現代社会の高度な科学技術の発展、普及によって、ネット社会はますます日常生活に欠かせない存在となってきた。それと美術はどう向き合っていけば良いのだろうか。それぞれの専門領域を意識しつつ、考えを述べてもらいたい。
- 3) 文章が論理的であるか否か。具体的な事例をあげながら述べているか。編入への意欲と目的意識が明確であることが望ましい。